

---

# world symphony

カツヒロシ!!

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

w o r l d   s y m p h o n y

### 【Nコード】

N 0 5 3 5 C

### 【作者名】

カツヒロシ！！

### 【あらすじ】

ここは何処だ。そんな疑問を、何度考えたかわからない。俺は誰だ。それすらも、わからない場所。俺は世界と調和する。

## (前書き)

この作品はフィクションです。つーか実際こーなったら怖い。大丈夫。安心してみてください☆

ここは何処だ。

そんな疑問を、何度考えたかわからない。

俺は誰だ。

それすらも、わからない場所。

俺は世界と調和する。

——最後にある記憶は。

そうだ。いつも通り仕事を終えて、コンビニで弁当と酒を買ったんだ。

そのあと、歩いて五分の自宅に戻って、買ったもんを着替える前に食べた。

それから・・・それから？

「どうだい、無くなってしまった気分は。」

ふいに聞こえたその声に、回想をかき消された。

「無くなった？」

意味がわからなかった。俺はこうしてここにいる。  
何を寝ぼけてるんだといわん口調で声はいった。

「そうだよ。まさか・・・わすれちゃったとか？」

「まあ、憶えてないな。」

そして声は言う。

「仕方ないやつだ。じゃあ思い出させてあげるから、何も、考えないでいて。」

いわれるまま、意識を集中した。

くだらないテレビがやっている。

内容は、よく覚えていない。

ただ、弁当はまずかった。俺は酒で口直ししていたんだ。

突然、くだらないテレビの画面が切り替わった。

臨時ニュース、と画面右上に書いてある。

俺は、耳をそばだてた。

「北極点から、突如現れた光がありとあらゆる生き物を吸い込んでいます。光にしては広がるスピードが遅く、明後日までは避難すれ

ば対策をうてるということで、世界各国の首脳がオーストラリアに集まり始めています。」

そして、画面に大きく、光がうつされる。

それにむかって、木々、草花、建物、動物、人間が吸い込まれていた。

パニックになった。

どうしようか迷った。

とりあえず、酒を飲んで冷静になろうとした。

明後日までに、偉い人がなんとかしてくれる。そう信じて。

テレビは、ライブ中継になった。光は少しずつ広がっている。

俺は風呂に入った。

なんか別にそれでもよくなった。

思い残すものがなかったから。

家族も、友達も、恋人もいないし。

風呂から上がって、テレビ中継の様子がおかしいことに気づいた。

「光の速度が急激にあがっているようです。我々も危険なので避難します。映像は長し続けるので大丈夫です。」

なにが大丈夫なんだか。

光の広がるスピードがはやくなってきた。

とゆうか、もう新幹線が走るスピードくらいで、中継車の目の前でせまっていた。

そして、

「ガガガッ」と音がして。中継は終わった。

テレビを消した。

しめていなかったカーテンをしめようとして、外が異常に明るいことに気付いた。

ああ、もうすぐくるじゃねえか、と目をつむった。

それから30秒後。

目を睨った視界が、一瞬明るくなった。

「――どうだい？思い出したかい？」

声の主が俺に聞いた。

「ああ、完全にな。」

俺は、消えたんだ。

視界には茶色の大地しかうつっていない。

「で、あんた誰？」

「僕？僕はこの世界の作成、管理を頼まれていた神様です。」

なんでもありがよ。

「どうして、世界を無くした？」

俺は聞いた。

やつはすぐかえす。

「久々に、世界の歌が聞きたかったただだよ。ほら、耳を澄まして  
ごらん。」

静かに、意識を整えた。



風の音にあわせて、綺麗なソプラノの声と、テノールと、バスと、アルトの力強い音。

それぞれの歌がまじりあっているような。気がした。

「いい感じだな。」

「そうでしょ？」

「他の生き物は？」

「いい質問だね。」

そして声はいう。

「この世界は荒れすぎた。だから一度全部なくして、またつくろうと思ったんだ。」

「はあ・・・え、じゃあなんで俺はいるんだ？」

「私は大変、君を気に入った。ホントはすべて消し去りたかったが、君だけは特別だ。」

つまり、もう俺しかないのか・・・

「君には、これから私がまたつくる土地に地球ジン1号ということ  
で生きてもらうよ。よろしく」

「はいはい・・・」

もういいや。  
眠ろう。。

次に目覚めたのは、草が少しだけ生えた土地だった。

誰も、なにもなかった。  
草が仲間だった。

今日から、一人で暮らすのか。  
あ、でも太陽はまだあんなにも輝いている。  
何をすりゃいいかな

・・・なんでもいいや。きっとまた元通りになるさ。その時俺はいないけど。

そう考えると、すっきりした。

俺はあの歌を思い出しながら、歩き始めた。

世界の歌はこんな風に聞こえた。

災悪は生物が運んだ、

私への最高のプレゼント。

私は歌おう、プレゼントへ感謝をこめて。

世界のしらべを。

## (後書き)

いかがでしたか？なんかよく意味がわからなくなりましたが。終わらせられました。ワールドシリーズ2作品目です。どんどん、まだまだふやします。それでは、また後ほど。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n0535c/>

---

world symphony

2010年10月14日09時24分発行